



ふじの満開は昨年より10日遅れの到達でした。開花期以降、黒星病の胞子飛散が確認されています。引き続き10日間隔で薬剤散布を進めてください。また、サビ発生防止のため、6月末までは高温時の散布は控えてください。 \*参考：ふじ満開5/4（昨年比+10）

## りんご

✦ 5月中下旬の薬剤散布（定期）：前回から10日後

✦ 散布時期：5/18～22頃 \*目安

✦ 散布薬剤：水	100%
展着剤	10ml
フルーツセイバー	50ml（前日、3回）
コルト顆粒水和剤	25g（前日、3回）

散布日：5月 日

散布量： リットル

✦ 対象病害虫：黒星病・黒点病・うどんこ病・赤星病・アブラムシ類・カイガラムシ類

✦ 10アール当り散布量：600%

### 【注意事項】

- ① 黒星病対策：展着剤ササラ2,000倍を使用する。
- ② カメムシ類対策：コルト顆粒水和剤に代えて、劇モスピラン顆粒水溶剤4,000倍（前日、3回）を使用する。
- ③ 枝腐らん病対策：トップジンM水和剤1,000倍（前日、6回）を加用する。
- ④ カルシウム補給：スイカル1,000を加用する。また、スイカルに代えてストピットII（カルシウム補給+果面保護）の500倍を使用してもよい。

✦ 5月末の特別散布（黒星病強化版）：前回から7日後

✦ 散布時期：5/25～31頃 \*目安

✦ 散布薬剤：水	100%
展着剤（ササラ）	50ml
ジマンダイセン水和剤	200g（前日、3回）

散布日：5月 日

散布量： リットル

✦ 対象病害虫：黒星病

✦ 10アール当り散布量：600%

### 【注意事項】

- ① 枝腐らん病対策：トップジンM水和剤1,000倍（前日、6回）を加用する。
- ② アブラムシ類対策：モスピラン顆粒水溶剤4,000倍（前日、3回）を加用する。

✦ 6月上旬の薬剤散布（定期）：前回から15日後

✦ 散布時期：6/5～10頃 \*目安

✦ 散布薬剤：水	100%
展着剤	10ml
アントラコール顆粒水和剤	200g（45日前、4回）
劇ダーズバンDF	33g（45日前、1回）

散布日：6月 日

散布量： リットル

✦ 対象病害虫：黒星病、黒点病、斑点落葉病、褐斑病、炭そ病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ他

✦ 10アール当り散布量：600%

### 【注意事項】

- ① カイガラムシ類対策：アプロードフロアブル1,000倍（30日前、2回）を加用する。
- ② 枝腐らん病対策：トップジンM水和剤1,000倍（前日、6回）を加用する。
- ③ カルシウム補給：スイカル1,000倍を加用する。また、スイカルに代えてストピットIIの500倍でもよい。
- ④ ダーズバンDFは劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。

✦ 参考：ふじ薬剤摘果について \*詳しくは担当技術員までお問い合わせください。

## 1. 使用薬剤

- **マイクロデナポン水和剤 85 登録内容** ⇒ **使用目的：摘果・使用基準：満開後 1～4 週間後・1,200 倍・2 回まで**
- 効果発現を高めるため、基本的には単剤で散布してください。
- 極端に着果量が不足している場合：薬剤摘果は行わないようにしてください。

水	100 <small>リットル</small>	500 <small>リットル</small>	600 <small>リットル</small>	1,000 <small>リットル</small>
アプローチ B I (333 倍)	300ml	1500ml	1800ml	3000ml
●(劇) マイクロデナポン水和剤 85 (1200 倍)	83g	415g	498g	830g
散布量：500 <small>リットル</small> / 10 a				

### 注意事項

- ① 展着剤：アプローチ BI に代えて、ニーズ 1000 倍でもよい。\*使用量目安：500 リットル で 500ml・600 リットル で 600ml
- ② マイクロデナポン（水）は果皮、果柄や果台から発生した新梢（葉）から多く吸収される。よって、果実及び花そう葉に十分かかるように散布する。
- ③ 散布量が少ないと効果が落ちる場合があるので、多めに設定する。
- ④ 結実が悪い園、毎年生理落果の多い樹や園、極端に樹勢が弱い樹、強い樹は散布しない。
- ⑤ マイクロデナポン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。

## 2. 散布時期

- ① 満開 2 週間後目安 ⇒ 本年は **5/20～25 頃**
- ② 中心果の横径が 10～12mm 程度 ⇒ 測定位置：目通りの高さ
- ③ ふじは生理落果の少ない品種なので最も落果の多くなるタイミングで散布する。
- ④ この時期の果実は 0.5～0.7mm 程度 1 日肥大する。(10 日間で約 5mm～7mm 伸びる)

✦ 5～6 月の葉面散布資材使用例 \*下表の資材は定期散布農薬と混用可能です。

\*N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素

商品名	保証成分量	使用目的	使用時期	倍率(倍)	価格/規格	600 <small>リットル</small> 価格
グリーンデイズ (微量元素補給に！)	水溶性苦土 16% 水溶性マンガン 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	結実後～ 6 月下旬	1000	1,503/1 kg	901 円
オルガミン DA (葉の健全育成に！)	窒素全量 0.11% 水溶性苦土 4% 水溶性ほう素 0.7% 水溶性加里 0.11% 水溶性マンガン 0.25%	光合成促進 品質向上 等	結実後～ 収穫前	1000	3,666/10 15,552/50	2,200 円 (10) 1,866 円 (50)
ビックマグ	水溶性苦土 23%	苦土補給 葉の健全化	結実後～ 6 月下旬	1000	1,149/1 kg	689 円

✦ 今後の技術対策について

### ◆ 結実後の技術対策

- ① 満開後約 3 週間位で結実量や幼果のサビ等が確認できます。よって、結実状況を確認し予備摘果作業に入ってください。
- ② ふじで結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果（果面の 50%位まで）等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。
- ③ 低温被害が大きい地帯では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。
- ④ つがるや秋映等の品種で、低温被害が見られる場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めてください。
- ⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。
- ⑥ 養分転換期の 5 月中旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施してください。（詳細は上記参照）

果樹特報 No5 発行予定：6/17 (月)

- ◆ 6 月中旬 (6/20～25) \*梅雨入り後
- ◆ 7 月上旬 (7/5～10) \*梅雨最盛期

果樹特報 No1～5 は JA 中野市ホームページに公開中です。パソコン・スマートフォンからもアクセスできます。ご利用ください。